

授業科目の区分	専門分野《母性看護学》			
授業科目	母性看護概論			
開講年次・学期	2年次・前期			
単位（時間）	1（30）			
担当講師	《実習指導教員》助産師としての実務経験あり			
科目のねらい	ひとつのもつ種族保存の働き（生殖）とその意義を理解すると同時に、母性の各ライフサイクルにおける特徴を理解し、母性保健活動における看護の役割について理解する。			
到達目標	1) 対象となる人々の特徴を理解し、女性のライフステージ各期における看護について説明する。 2) 母性領域に関する統計指標や法規をもとに母性を取り巻く社会の現状を理解し、母性看護の必要性を説明する。 3) 母性領域の倫理問題について、グループ学習やディベートをもとに知識や看護観を深める。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1（2h）	<グループワーク> 自己の出生にまつわるエピソード	自己の出生にまつわるエピソードをレポートする。【事前課題】	「生まれること」、自分や家族など「他者」の存在について考える。【事後課題】
	2（2h）	<講義> 母性とは・母子関係と家族発達	「母性」や「父性」のイメージを考える。【事前課題】	母性についての考えをまとめる。【事後課題】
	3（2h）	<講義> セクシュアリティ（人間の性）	「性」や「女性らしさ」・「男性らしさ」について考える。【事前課題】	人間にとっての性についての考えをまとめる。【事後課題】
	4（2h）	<講義> リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション	テキストの該当箇所を読む。	リプロダクティブヘルス/ライツの現状と課題を明確にする。【事後課題】
	5（2h）	<講義> 母性看護のあり方		母性看護の役割や課題を明確にする。【事後課題】
	6（2h）	<講義> 母性看護の歴史の変遷と現状 母性看護の対象を取り巻く環境		環境が母性に及ぼす影響から母性の特性を理解する。
	7（2h）	<講義> 女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承		女性のライフサイクルと母性の発達を関連づけて考える。
	8（2h）	<講義> 母性看護に使われる看護技術		学習した内容を整理する。
	9（2h）	<講義> 思春期の健康と看護 1) 思春期女性の特徴 2) 健康問題と看護 3) 思春期女性への看護の視点	女性の性周期に関連するホルモンや卵巣周期について復習する。【小テスト】	
	10（2h）	<講義> 性成熟期の健康と看護 1) 性成熟期女性の特徴 2) 健康問題と看護 3) 性成熟期女性への看護の視点	テキストの該当箇所を読む。	
	11（2h）	<講義> 更年期・老年期の健康と看護 1) 更年期・老年期女性の特徴 2) 健康問題と看護 3) 更年期・老年期女性への看護の視点		

	12 (2h)	<講義> 母子保健統計の動向	自分が生まれた年の出生数を調べてくる。												
	13 (2h)	終了試験 ----- 集団指導・ディベート準備	終了試験の学習を行う。	グループで発表準備を行う。											
	14・15 (4h)	<集団指導> 思春期／性成熟期／更年期・老年期にある人を対象とした模擬集団指導 <ディベート> 母性看護領域の倫理に関する論題でのディベート	グループで発表準備を行う。	発表で使用した資料をまとめ提出する。 集団指導・ディベートの学びをレポートする。 【レポート課題】											
必携文献	1) 森恵美他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔1〕母性看護学概論，医学書院，2026. 2) 森恵美他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕母性看護学各論，医学書院，2026.														
参考文献	1) 厚生統計協会編：厚生指標 国民衛生の動向.														
成績評価方法	終了試験（筆記試験）：70%、レポート課題：10%、小テスト：10%、出席と学習への取り組みと態度：10%、合計で6割以上を合格とする。														
備考															
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26 試験 (1)	28	30

授業科目の区分	専門分野《母性看護学》						
授業科目	母性看護実践演習（妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護展開）						
開講年次・学期	2年次・後期						
単位（時間）	1（15）						
担当講師	《実習指導教員》助産師としての実務経験あり						
科目のねらい	母性看護の展開プロセスを理解し、母性看護の実際について理解する。						
到達目標	1) 紙上事例をもとに妊産褥婦、新生児の生理的変化や病態を理解し、必要な援助について説明する。 2) 母性看護技術（新生児の看護）演習を通して、新生児に必要な技術を体験する。						
授業計画	回	内容と方法			事前学習	事後学習	
	1（2h）	<講義> 1) 授業ガイダンス 2) ウェルネス看護診断について 3) 母性看護におけるアセスメントの視点 4) 事例紹介 ・妊娠高血圧症候群の初産婦の看護 ・母乳栄養確立を目指す褥婦と新生児の看護				個人で事例をもとに情報の整理と解釈分析・関連図を考える。	
	2（2h） 3（2h） 4（2h） 5（2h）	<グループワーク> 情報の整理と解釈分析・関連図・看護計画			個人で情報の解釈と分析・関連図・看護計画を作成する。 グループワークに積極的に参加できるように学習準備をする。 【事前課題】	グループワークで話し合った内容をもとに個人の情報の解釈と分析・関連図・看護計画を再考察する。	
	6（3h）	<演習> 各事例の看護計画の発表と共有			模擬患者に対して看護計画の一場面のロールプレイができるように準備する。 【事前課題】	グループワークや発表をもとに情報の解釈と分析・関連図・看護計画を再構築する。	
	7（2h）	<演習> 新生児の看護（出生時の計測・処置、沐浴）			テキストの該当ページを読む。 看護技術経験録の項目を確認する。		
必携文献	1) 森恵美他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔1〕母性看護学概論，医学書院，2026. 2) 森恵美他：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕母性看護学各論，医学書院，2026.						
参考文献	講義内で随時紹介します。						
成績評価方法	個人の課題レポート（90%）、出席と学習への取り組みと態度（10%） 合計で6割以上を合格とする。						
備考	グループでの学習が中心となります。各自がグループワークに向けて学習準備を行う必要があります。						
出席自己 チェック欄 15h	2	4	6	8	10	13	15